

令和三年

新春を迎えて



新年あけましておめでとうございます。町民皆様には、うららかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

令和2年は、新たなウイルスという、目に見えない敵が世界を一変させました。

2月には、北海道独自の緊急事態宣言や学校の全国一斉臨時休業、4月には、国が全国に緊急事態宣言し、不要不急の外出自粛を要請いたしました。

今では、ほぼ全員がマスクをし、こまめに手洗いをし、自宅で仕事をし、パソコン越しの飲み会か、お行儀のよい会食。お店に

入るときは検温と消毒、カウンターにはビニールが垂れ下がるなどの生活スタイルが日常となり、現在もなおその戦いが続いております。

町といたしましても国の臨時交付金を活用しながら、この非常事態での最大の被害者は子供たちであるとの考えのもと、学校施設の感染症対策は基より、国が推進していますGIGAスクール構想とは別に、家庭においても先生や仲間とつながることのできる環境整備を独自で早急に進めて参りました。

また、感染症対策、経済支援、生活支援の均衡を図りながら、できるだけ、未来につながる支援策を講じて参りました。

そのような、重たい空気感の中、目の前の雲を蹴散らすような話題が町内を駆け巡り、町民に夢と希望を与えてくれました。

町出身の伊藤大海投手の日本ハムファイターズ、ドラフト1位指名です。町では盛田幸妃投手に次ぐ2人目となる快挙であります。

町全体で伊藤投手の今後を温かく見守り応援して参りたいと考えております。また、有志による後援

会設立なども期待している所であります。

さて、私の任期も残すところ、2か月足らずとなりました。

この間、町民皆様のご協力をいただきながら、町政運営に誠心誠意努めて参りました。

初年度は、私も含めました役場職員の意識改革と対話ミーティングなど町民皆様の小さな気付きや想いを見逃さない仕組みづくりを行って参りました。対話ミーティングなどは、今では、私共の進むべき道を照らす、大変重要な事業となつてございます。また、中小企業振興条例の制定や子育て世代の方々から多くのご要望がございました、夏休み、冬休みの預かり保育の実施など、1年目からスピード感を持って、法整備や事業の拡充、各制度設計等に取り組んで参りました。

2年目の平成30年度は「更なる挑戦」と「確実な実行」の年として、5つの課題の方向性を決定させていただき、これまで、なかなか踏み切れなかった、0歳から2歳児の保育事業をスタートさせ、実際にご利用いただく事業者

などの声を聞きながら、企業への補助事業制度を創設することができました。



しかべ保育事業「ひよこ」

水産業については、昆布やなまこなど各種試験事業の規模を拡大しながら、同時に人財育成にも力を入れ、進めて参りました。また、これまで、鹿部の宝だった「しかべ間歇泉」が見事、北海道遺産に選定され、北海道の宝へと押し上げることが出来ました。

3年目は、新たな元号、令和がスタートいたしました。令和元年